

大学の知財活動 その進展と今後の重点課題

2004年4月14日

慶應義塾長

安西祐一郎

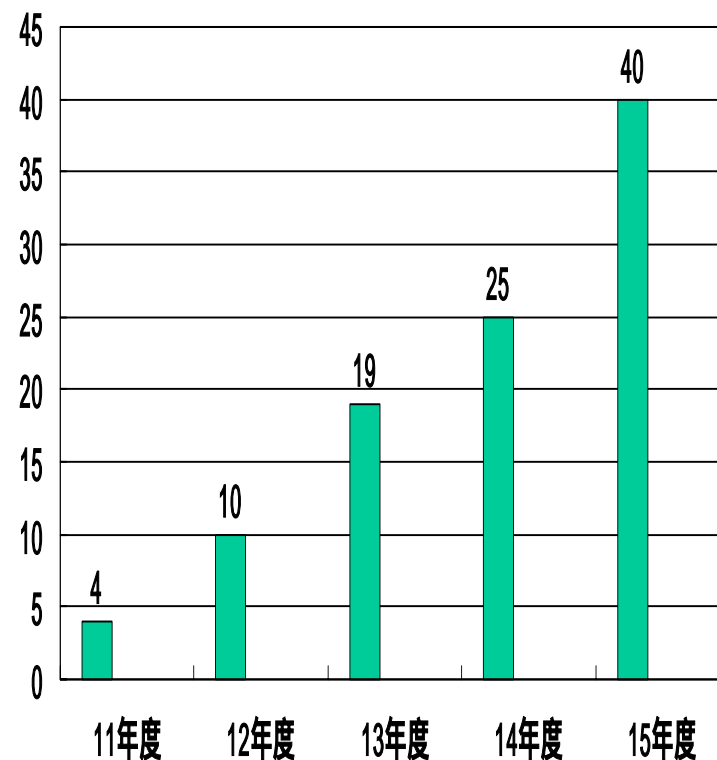
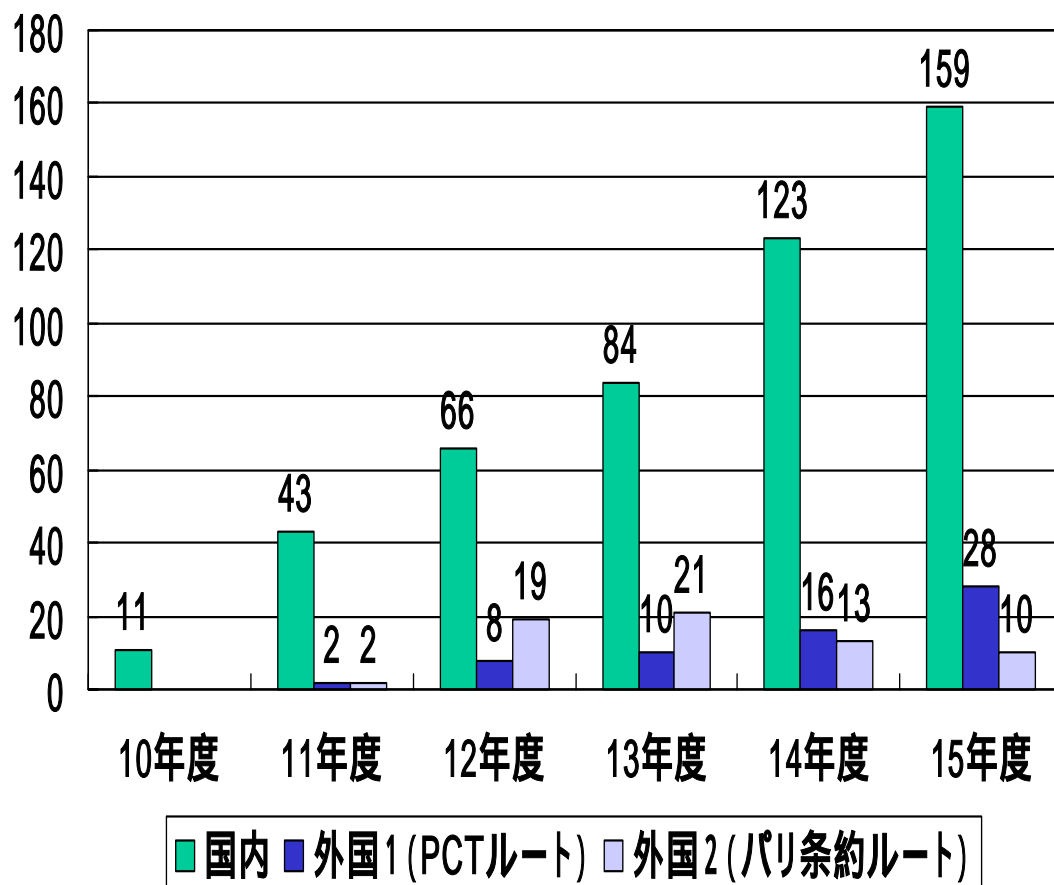
慶應義塾大学における知財活動の進展

特許出願

合計：615件

技術移転

98件



知財を核としたベンチャー：8社

慶應義塾大学の知財活動に対する教員の評価

1 特許や技術移転の相談をした際の対応



2 特許出願に関する決定



3 発明提案から特許出願までに要した時間



4 ライセンス活動に対する評価は



5 契約に対する評価は



■ とても満足 ■ 満足 ■ どちらとも言えない ■ やや不満 ■ 不満

慶應義塾大学のイニシアチブ

- **ベンチャー創出支援プログラム**

ベンチャー企業を起こすことにより、ベンチャーに関わる人材を数多く育て、ベンチャーを生み出す環境を創る

- **技術移転促進プログラム**

地域企業との連携を強化する

- **事業化促進プログラム**

大学の技術を見える形(試作化)にする

- **共同研究調整プログラム**

知財条項の調整、契約支援を行う

今後の大学における重点課題

- デジタルコンテンツに関する国際的な専門人材を育成する
 - デザイナー、先端研究者・技術者、知財・標準・セキュリティ等の専門家
- 大学における知財の活用基盤を強化する
 - 日本版バイ・ドール法の充実と運用の定着
 - 国の資金によるソフトウェアの開発事業における知財も開発者に帰属させるバイ・ドール精神を徹底させる
 - パテントコストに対する措置
 - 特許の出願・維持経費の確保と、その多年度にわたる運用
 - ベンチャーが活発化する環境を創る
 - 経営人材の流動化を促進
 - 特許情報の活用基盤を強化する
 - 研究者が簡単に高速で調査できるシステムを実現